

北海道洞爺湖サミットにむけて

～ 議題の一つとなるのが 地球温暖化対策」

近年、気候変動をはじめとする地球環境問題が、国際的に大きな政治課題となっている。7月に北海道洞爺湖で開催されるG8サミット、北海道洞爺湖サミットにおいても、環境問題が最重要課題として大きく取り上げられる予定だ。気候変動問題は、先進国、開発途上国を問わず、国境を越えて人間の安全保障を脅かす喫緊の課題である。また、国際社会の一致団結した取組みの強化が急務である。とりわけ、2012年で終了する京都議定書第一約束期間後の次期枠組みに関する議論は、大きな焦点となっている。また、主要国首脳会議（G8サミット）に先立ち、G8環境大臣会合が兵庫県神戸市で開催された。G8の環境担当閣僚が一堂に会し、主な環境問題について意見交換を行うもので、その成果は北海道洞爺湖サミットで報告される。サミットでは、中期目標の設定検討ではなく、合意を期待したい。

今年も局所的に発生する異常気象

温暖化が原因かどうか、今年も春から局所的に異常気象が発生している。3月に夏の様な日があったと思うとその後に冬の寒さになり、また寒い後に夏の暑さである。北海道では、真夏日から一気に真冬日になって降雪を観測した。こういう年は、冷害になり易いという予報もある。4月末と今月の中旬に青森県では遅霜の被害があった。今年は暖かい陽気が続き、桜もリンゴもサクランボも一度に開花が始まって例年より早く花が咲き、その後の霜害、地域によってはマイナス6℃まで下がった。山間地の葡萄はほぼ全滅との報告もある。また秋田、山形、岩手、長野のリンゴがほぼ同時に花が咲き、収穫が同時になると一気にリンゴの価格が暴落するのではと心配する生産者もいる。去年の夏（8月上旬）、日本で35位の時に中国では雪が降ったが、今年は日本でも起きないとも限らない。

（次ページへ続く）

遠めがね

食の安全と言えば昨年までは「食品の安全」だけを直ぐ思い浮かべたが、今年に入って「食料の安定供給」が加わった。食品の安全では、原産地表示や賞味期限、消費期限の偽装などで輸入品ばかりでなく、国産品に対しても消費者の信頼を裏切った結果となった。その反省から、官民あげてその信頼性回復に動きだした。農業現場におけるGAPの統一は生産者の負担を減らすばかりか消費者の関心を高めるためにも重要であり、生産者並びに食品流通業界が一丸となった行動を取ることが求められる。5/30開催予定の日本GAP協会総会では、関係業界が集まり今後の新体制を決めることが予定されているが、結果を注目したい。食品表示では、新たな動きがマスコミで報道されている。栄養価表示、CO2消費表示、水消費量表示など健康と環境を意識した企業戦略が背景にあるようだ。食料の安定供給においては、国連が食糧資源のバイオ燃料への転用に警告を与えているが、カーボンニュートラルの観点より化石燃料からバイオ燃料への転換が世界の潮流となってきた中、矛盾をはらむ論争が官民あげて起き始めた。日本の農業でも幾つかの矛盾が生じている。日本は世界有数の水資源国であるにも拘わらず、世界最大の水輸入国である。日本はコメのDNA解析で世界のトップランナーであるが、遺伝子組み換え食品への消費者のアレルギーが高く事業化が難しい環境にある。世界的に食糧安上が議論される一方、バイオ燃料への新たな食糧資源の開発を促進することが必至の状況であり、日本の農業技術の更なる発展と水資源の有効活用を心から期待したい。

(前ページより続く)

日本は世界最大の水輸入国

日本の降雨量は年間1,718mlと世界平均第2位の水資源国であるが、輸入している農産物を仮に自国で生産する場合に必要な水資源(バーチャルウォーター)でみると、日本は世界各国から年間に穀物で283億立方メートル、大豆で121億立方メートル、畜産物で223億立方メートルの合計627億立方メートルを輸入したことになる。1人あたりに換算すると一般の家庭での年間水使用料の約5.6倍に相当する。国内の農業用灌漑用水は527億立方メートルであり、自給率100%の場合は水不足の懸念も出てくる。

MAC掲示板～人事異動～			
日付	氏名	新	旧
5/1	佐藤 久彰	本店原料部	札幌支店

食料輸送に伴うCO₂排出

食パン一斤に必要な小麦250gを輸入するのに排出されるCO₂を米国産小麦と北海道産小麦で比較すると、北海道産の35gに対し米国産は145gとなりCO₂を110g抑制できる。この量は冷房の利用時間を4時間減らすのと同程度の効果となる。輸入される食料に輸送距離をかけたフードマイレージでは日本は先進国中最も大きく、日本1に対し韓国は0.36、米国は0.33、英国は0.21に止まる。

日本は、地球温暖化を防止するため、京都議定書で2012年までに1990年比で6%の温室効果ガス削減を約束している。しかしながら2005年度における我が国の温室効果ガスの排出量は、1990年比で7.8%上回っており、温暖化対策をより一層強化する必要がある。

今年の9月には北極点周辺の氷が無くなる?

5/25のNHKスペシャル「北極大変動」は恐らく殆どの視聴者は背筋が寒くなるのを感じたのではないだろうか。北極海の氷解は今や止めることが出来る限界を超えた。海水の二酸化炭素吸収量も少なくなり、地球は益々温暖化し、北極海では白熊が餌不足で絶滅の危機を迎える。この環境問題に加え、国際的な食糧価格の高騰並びに一部地域における食糧不足に対応するため、国際的な緊急対応が発表された。国連では、潘基文事務局長が自ら議長に就任した世界的食糧危機タスクフォースが設置され、17億ドル規模の穀物種子と肥料の提供や世界食糧プログラムに対する7.55億ドルの資金不足の援助などが決まったほか、世界銀行では、世界食料政策ニューディール導入によるサブ・サハラ・アフリカの農業生産性向上のための8億ドル緊急融資、アフリカ諸国に対し1億ドルの食糧輸入の為の緊急支援などが決まった。北海道洞爺湖サミットにおいても、「食糧価格高騰及び食糧危機」が議題の一つとなり、先進国で最大の食糧輸入国である日本は、議長国として大きな役割と責任を負う。



マックスがつなく赤きタスキ

～荒川駅伝でみせた新ユニ&好タイム

新しいユニフォームで登場、駅伝同好会MAC'S(マックス)です。新ユニは、白地に赤と黒の縦縞でキラリと輝く「MAC'S」のロゴを胸にあしらひ、パンツも揃った。お披露目は今月の去る日曜日、恒例の東京都と埼玉県を挟む荒川河川敷を会場にした23km全4区間の駅伝大会。過去3年間の5大会で実に80%の降水確率は今年も雨天の肌寒いコンディションの中、1,456チームが襷にそれぞれの想いを込めて一斉にスタート。マックスは2チーム参加。



3名の助っ人さんに大感謝、日本カーバイド工業の稲子さんは、小学生時代から陸上競技を続けている本格派長距離ランナー、その走りは別格! 1時間49分24秒のチーム史上2番目の好タイムで、順位も721位と全体の半分を上回った。もう一つのチームもマイペースの堅実な走り、見事完走2時間5分28秒でゴールイン。まさに、雨にも負けずのチーム力発揮だった。打上げのビールと焼肉で完走を祝った。メタボ解消のランニングは最近のトレンドのようだが、“駅伝完走、ビールと焼肉で元のまま”にならぬよう、消費と摂取のバランスに気を付けつつ、次回大会も更なる記録更新を目指してトレーニングに励みたい。(MAC'S主将 東京支店 高橋)

当社では5/26よりクールビズを励行中です。ご来訪の際はご理解の上、ご了承下さい。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子